

明るく楽しい母親プロの映画

子牛と若夫婦 三巻

企画 貯蓄増強中央委員会
製作 母と子の桜映画社



文部省選定

桜映画社作品

16ミリ価格 三八、〇〇〇円
長さ 九六五呎 二十六分

スタッフ

製作	村山英治	悦	さん	キャスト	寺島アキ子
監督	青山通春	勇	さん		寄山弘
脚本	鮎沢美子	爺	さん		森野五郎
撮影	瀬川浩	婆	さん		原久子
照明	田口政広	分校の先生			田仲和彦
美術	阿部三郎	若	い		竹沢ティ子
音楽	渋谷修				
製作主任	久保治男	協力	群馬県利根郡久呂保村		

この映画について

これは実際にあつたお話です。全国地域婦人団体と貯蓄増強中央委員会が提携して、全国からあつめた主婦の体験記で入選した群馬県利根郡の一山村の主婦藤井エツさんの「八年間の記帳生活」に取材して、その村にカメラを持ち込み、村びとの協力によつて出来た劇映画です。約十年にわたる一農家の新しい歴史が、明るく淡々と描かれています。その底にはエツさんが歩んできた農家の生活が横たわっています。エツさんの文章は内容を要約しますと――

農家の生活様式の因習的非能率的なことが、だとい時間と時間を無駄につかっていることになり、そのことが、また農業経営を非合理的なものにとどめ、その結果は激しく働らく割に収益が少ないということにもなり、貧しい生活からなか／＼抜け切れない。エツさんもそういう中で黙々と働く嫌だったが、台所に流しがほしいと思つたことから、夫と共に貯金をはじめたのです。

それを手始めに生活を少しずつ能率化しながら経営の合理化にも着手する。ふえた収入は貯蓄して、その貯蓄でまた次の生活改善を実現し、また新しい経営の合理化に入る。こうして一步一步生活の向上を図つたエツさんの体験記には、十年の歴史が記録され、その間につきまとつた老父などとの考え方のへだたりを克服して一家和合の生活に到達した姿がムダのない筆で描かれています。

子牛と若夫婦

ストオリイ

畑へ往き来するだけでもなか／＼時間のかかる山村のこととて、西の勇さんは野良仕事の手が廻らないので、いつも後かたづけをしてから追ってくる妻のエッさんをノロいと叱る。夫婦げんかのタネはいつもこれである。このタネから不向きな古い台所を直そうという若い夫婦の計画が芽生えた。二人は協力して家計簿をつけ少しでもムダを省いて貯金しようとするが、爺さんは「おれたちのすることを監視する気か!」と頭から反対する。そこでエッさんが考えたのがタバコ貯金だ。勇さんは辛いタバコを吸わないので、吸ったと思つてその分だけの貯金をしてもらうことにした。



貯金
はすこ
しづゝ
ふえて
いった
勇さん
もいろ
いろ工
夫する
張り合
いが出
てくる
そして
おおよ
まかな
が月別
の収支
一覧表

を作つてみると、長い冬の農閑期に全く収入がないことに気がつく。これが貧しい原因だ。そこで二人は相談の上、台所の改善はひとまずあきらめ、乳牛や養鶏をはじめようとするが、ここでまた生き物のきらいな両親の猛反対に合う。

しかし二人はタバコ貯金で風呂の好きな親父のために太陽風呂を作つたりして和解していく。こうしてムリして飼つた乳牛が孕むころには、老夫婦までが子牛の誕生を期待するようになる。軌道に乗つたエッさんの一家はそれから年々順調に成長していく。それはまた、昔のままに沈滞した静かな村にも大きな刺激にならずにはいなかった。(映写時間二十六分)

農家と家計簿

生活をよくしていくには、積極的に収入をふやす工夫も必要であるが、記帳によつて自分の生活を整理、ムダをなくして貯蓄をふやし、貯蓄を裏付けとして経営や生活の改善に計画性を入れていくことが大切だといわれる。新生活の第一歩は、主婦が持ちなれない鉛筆を手にして毎日の支出をつけていくことから始まるというわけである。

しかし、農家となると、生活改善の意欲を燃やしている若い夫婦があつても、一家の家計をまかされているわけではないので、ことはかんたんではない。農家の生活には因襲的な交際費をはじめムダな支出や不合理も多いと思われただけに、一そう工夫の余地もあろうというものだが、これに手をつけるには一家の協力も要るし、機智も要る。一農婦の体験が生んだこの映画は、農村の老人にも、若い人たちにも、示唆するところが多いと思う。

☆グランプリ受賞

桜映画の初の児童劇映画「お姉さんといつしよ」がベニス国際映画祭(児童映画展)で、日本としては初のグ

お金と私たち 3巻

中学生の社会科課程という形式をとつてお金の動きを追ひ、国民経済とくらしの繋がりを明かにしてゆく。日本経済の繁栄と、明るいくらしのために、輸出と貯蓄がどんな役割をしているかを、生徒の眼に映つた事物によつて分りやすく描いた。

輸出の振興が最近またよく叫ばれ、繁栄が長くつづくことが皆の願いとなつている今日、この映画は話合いの場の、生きた話題となるでしょう。(企画貯蓄増強中央委員会、桜映画社作品、監督樋口源一郎、撮影江連高元)

16ミリ価格三〇、〇〇〇円

ラン・ブリ(大賞)を受賞しました。ベニス映画祭は、カンヌ映画祭と並んで世界的に権威があり、こゝで児童映画製作の盛んなイギリス、フランス、ソ連、チェコ等をしていので第一位になつたのですから、日本の児童映画が世界水準にあることが内外に認められたわけで、こんなうれしいことはありません。

「日本の近代産業」も受賞

本年三月、ジェトロ(海外貿易振興会)の依頼で完成した「日本の近代産業」四巻も、このほど、外務省主催の海外紹介映画コンクールで優秀作品賞と、朝日新聞社賞を合せ受賞しました。オートメーション方式による大規模な今日の日本の産業が、イーストマンカラーの美しい色調で描かれ、その中からそれを作り上げた人間の営みが浮び上つていきます。